

# 熊本セントラル病院が 担う役割について

令和5年8月  
社会医療法人潤心会 熊本セントラル病院



## 病院理念

「For The Patient」 患者さんのための医療を実践します

私たちは

1. 患者さんのために、医療の向上に努めます。
2. 患者さんのために、サービスの向上に努めます。
3. 地域のみなさんの健康と福祉の増進に努めます。

## ビジョン(潤心会 Challenge 2030)

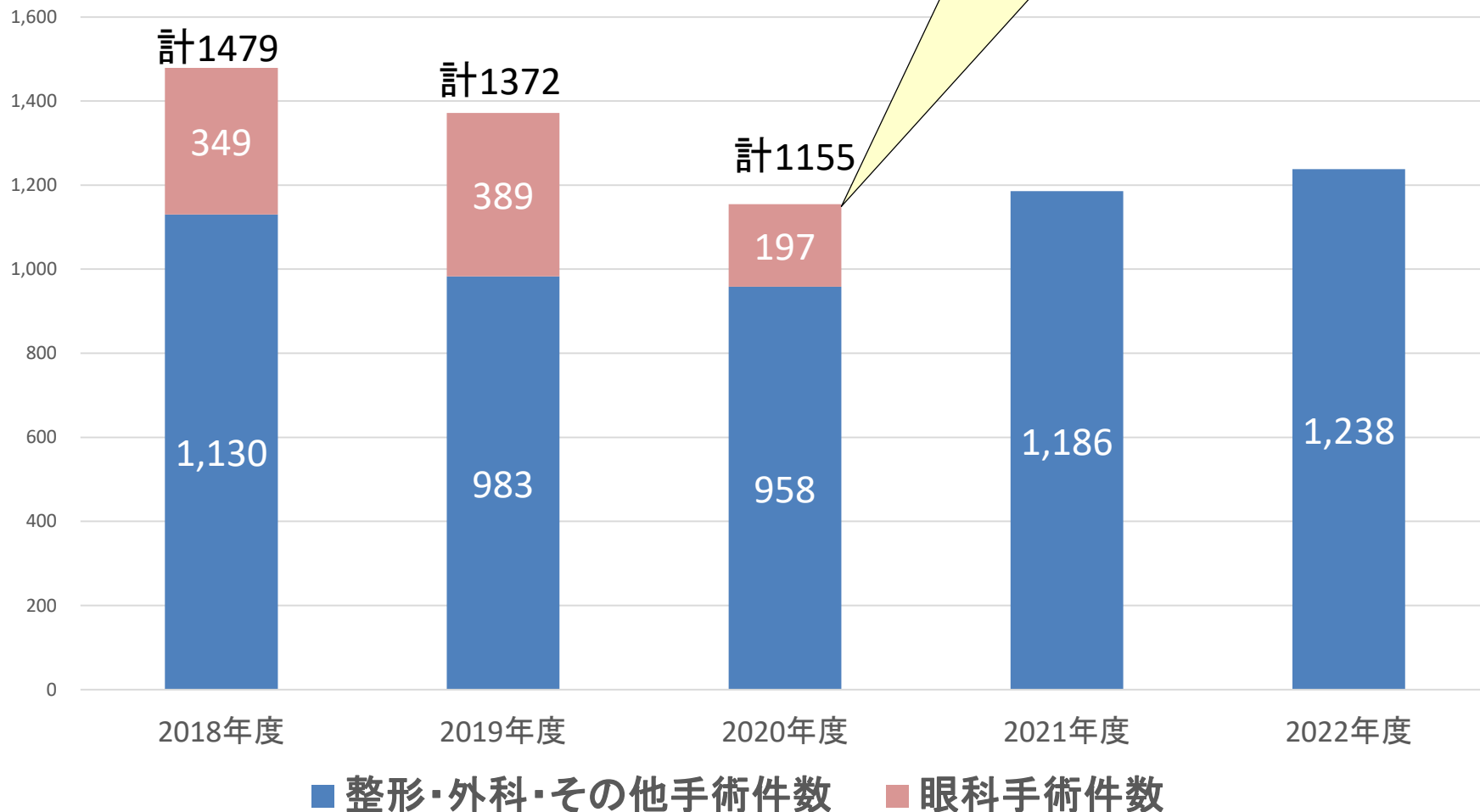
菊池・阿蘇地域の中核医療機関として、潤心会事業のすべてにおいて地域に関わる人々の健康・福祉に貢献できる能力を有し地域に信頼され選ばれる法人になるとともに、災害時における拠点としての機能を果たす施設となることを目指す。

### 病院概要

- 所在地：菊池郡菊陽町原水2921番地（令和2年10月移転新築）
- 病床数/診療科：246床 / 22診療科  
再掲）急性期一般入院料1（7対1） 2病棟 合計 96床  
地域包括ケア病棟入院料2 3病棟 合計150床
- 平均在院日数：15.0日（一般病棟） 22.4日（地域包括ケア病棟）
- 設備・機器：O-arm術中イメージングシステム(県下初導入)・MRI3T・マルチスライスCT80列・血管造影装置・マンモグラフィ・骨塩定量測定装置・各種内視鏡・化学療法室・温熱療法室・高圧酸素治療室・人工透析室等
- 関連施設 介護事業所(居宅支援・訪問看護ステーション・通所リハ・認知症対応型通所介護)  
企業主導型保育園 定員60名【病児保育室併設】
- 職員数：約530名  
一部再掲）常勤医師 30名 非常勤医師 16名 看護師 216名  
薬剤師 13名 診療放射線技師10名 臨床検査技師14名  
事務系職員95名（内、医師事務補助14名） など

# 1 現状と課題

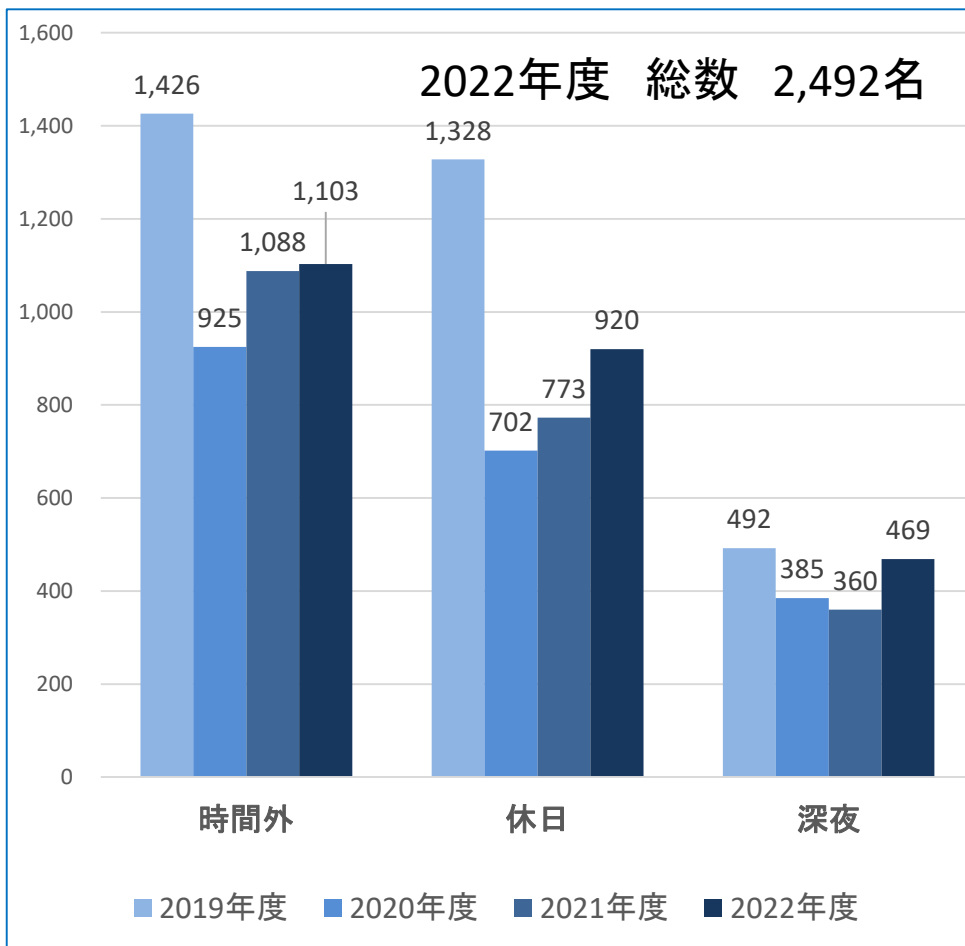
## 手術件数



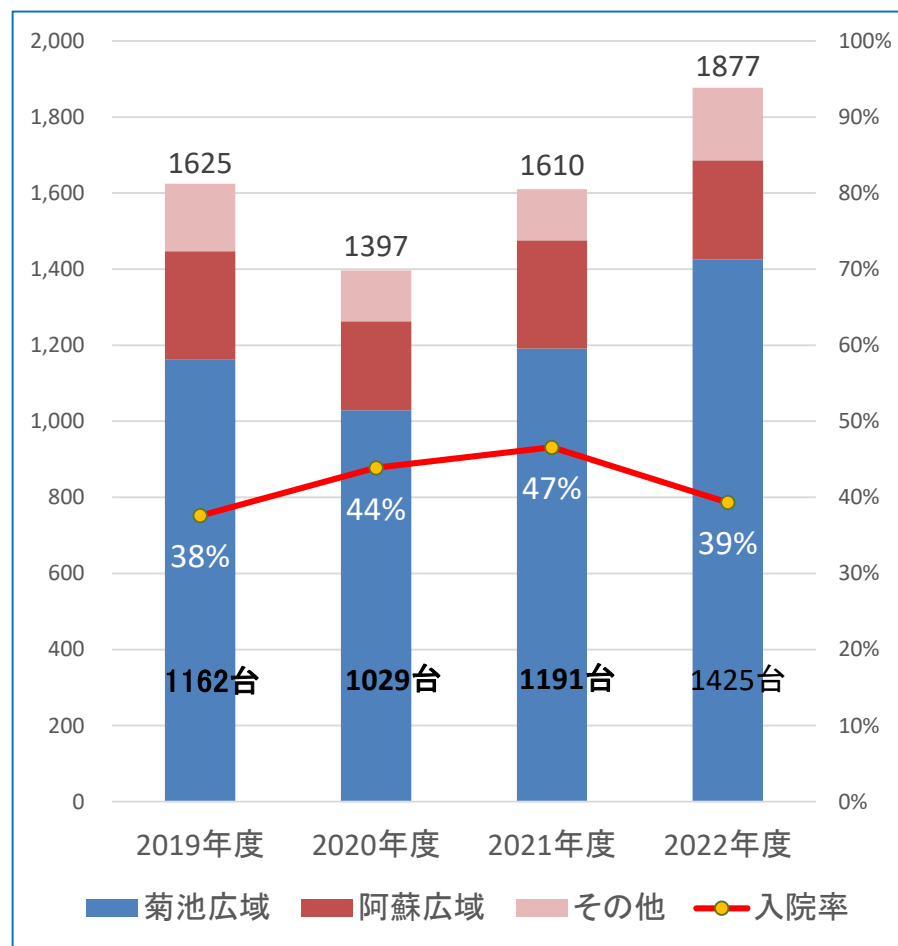
一時減少したが新病院移転後に増加に転じており、今後も増加傾向にある。

# 1 現状と課題

## 時間外・休日外来患者数



## 救急車搬入台数・入院割合

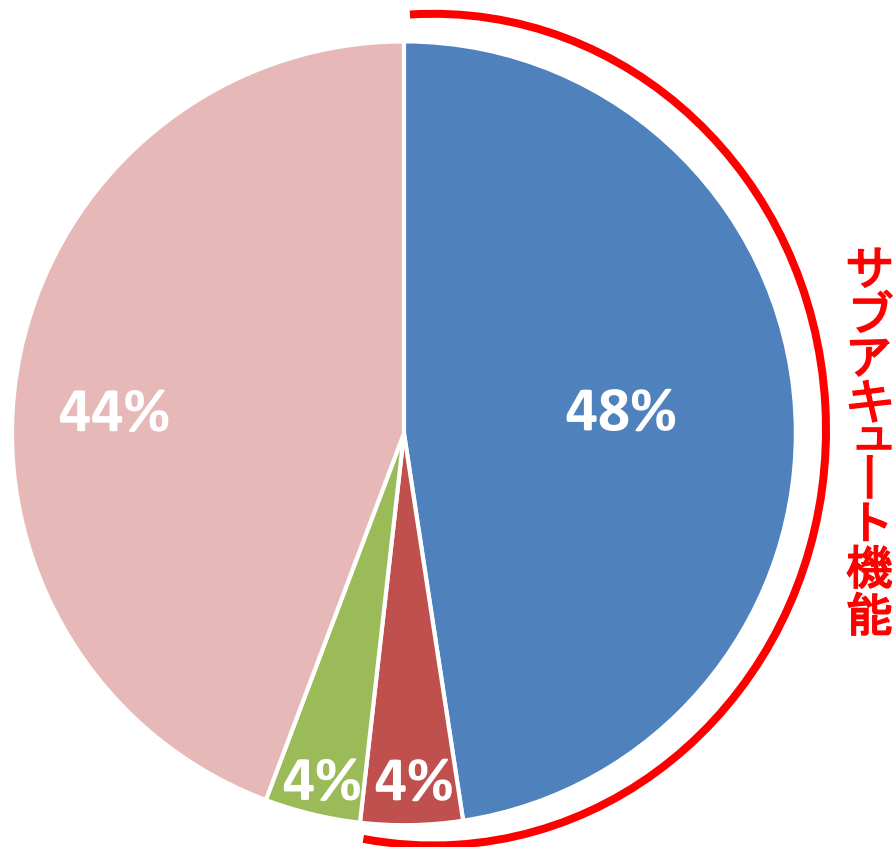
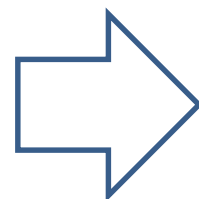
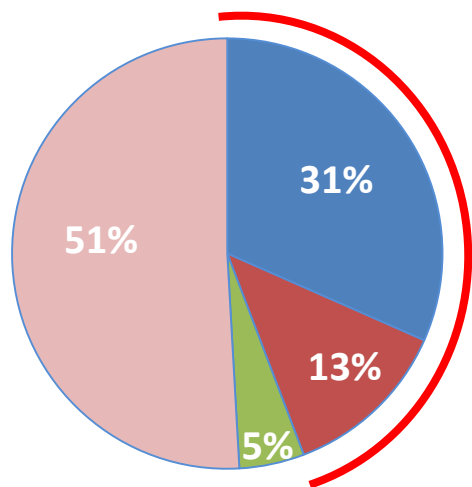


新型コロナの影響もあり患者数・救急車台数ともに一時減少したが、増加傾向にある。

# 1 現状と課題

## 地域包括ケア病棟 入院経路

前回(平成30年)報告

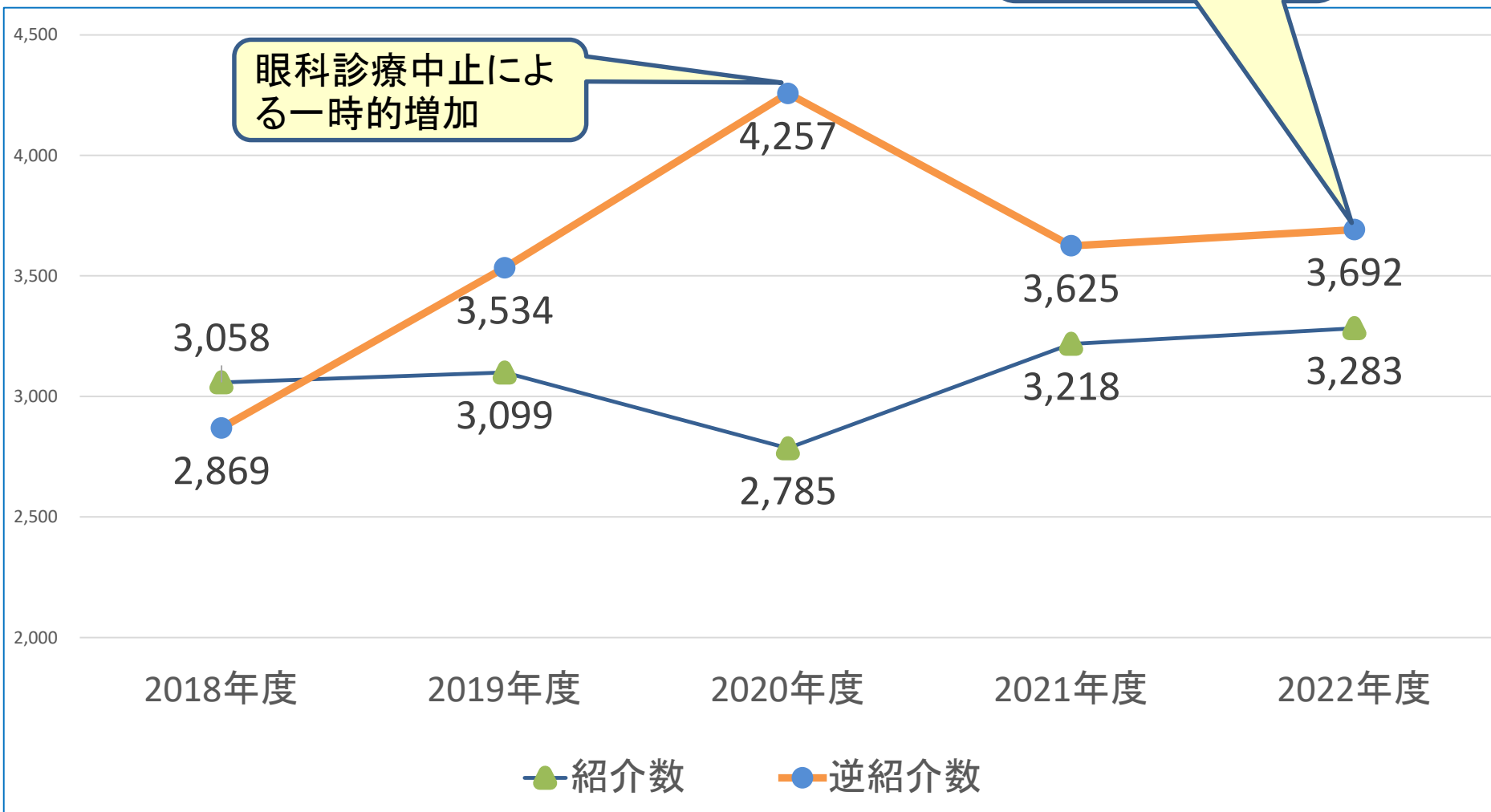


■ 自宅より ■ 他病院・施設より ■ 3次救急より ■ 当院一般病棟より転棟

前回報告時より自宅等からの入院割合が増加し、院内からの転棟率は低下。

# 1 現状と課題

## 紹介・逆紹介数 紹介率



紹介・逆紹介件数は微増傾向。直近の紹介率は22%、逆紹介率が23%となっている。

## 5疾病

がん	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 新病院移転後、手術室を4室に増やし受入体制の強化を図っている。</li><li>○ 外来化学療法室を新設し、これまでに実人数45名の外来腫瘍化学療法対象の患者を受け入れている。</li><li>○ 非常勤病理医を採用し、術中迅速病理診断を実施。</li></ul>
脳卒中	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 現在、常勤医1名体制であるが、7月より脳神経内科医を1名採用し、体制構築中(急性期・救急医療体制の強化)。</li></ul>
急性心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 常勤医1名と熊本大学病院の非常勤医師の協力を得て診療を行っている。</li><li>○ 一次対応は可能であるが、超急性期は三次救急医療機関との連携を図っている。</li><li>▲ 急性期患者の受入体制強化(複数の常勤医配置)が課題。</li></ul>
糖尿病	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 非常勤専門医1名による診療を提供している。看護師等で構成する支援チームによるサポートも合わせて行っている。</li></ul>

5疾病については当院の現状を踏まえつつ、現状体制の維持を最優先に対応する。



## 5事業

### (社会医療法人としての地域貢献)

救急医療	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 今年度より救急部門を立ち上げて担当医の配置、救急救命士を2名採用するなど体制を構築中である。</li><li>○ 今後、職員体制を整備し本稼働予定。</li></ul>
災害医療	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 3月に熊本DMAT指定病院、4月に菊池圏域の災害拠点病院として指定。</li><li>○ DMATは現在1チーム体制。チーム力強化と院内バックアップ体制等の構築が課題となっている。</li></ul>
へき地医療	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 平成29年より毎週木曜に産山村診療所への医師派遣を行っている。今後も継続予定。</li></ul>

## 2 今後の方針

### ☆ 救急医療

- 救急部門の安定稼働。
- 救急車搬送患者の受け入れ体制の強化。
- 看護師・救急救命士などコメディカルと連携したタスクシェアの推進。

### ☆ 災害医療

- 災害拠点病院として菊池地域での中心的役割を果たすための能力強化。
- DMATチームの能力強化、バックアップ体制の構築。
- 地域と連携した災害訓練の計画。

### ☆ 新型コロナ・新興感染症対策

- 新型コロナウイルス重点医療機関の指定を受けて、病床の確保を行ってきたことを踏まえ、引き続き感染状況の注視及び行政との連携を継続していく。

### ☆ 在宅復帰支援(地域包括ケアシステムへの参画)

- 入院患者の約90%が在宅復帰されており、安心して地域で引き続き生活できるための支援体制の充実、地域開業医との連携を強化していく。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(令和5年)	2025年(令和7年)
高度急性期			
急性期	109床	96床	96床
回復期	150床	150床	150床
慢性期			
その他	※49床(休床)	※移転時、 62床減床	
合計	308床	246床	246床

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 急性期

- 令和2年10月の移転時、病床62床を減床し急性期一般病棟は2病棟96床体制となった。一方で、手術件数は移転前より増加に転じ今後さらに件数が増える事が予想され、地域に求められる急性期機能を担っていく必要がある。
- また、救急部門の強化により、高度急性期領域の患者の受け入れも増加すると想定している。受入態勢強化のため医師確保、専門医の充実を図っていく。加えて地域ニーズがある場合は、HCU病床（4床）の導入も今後検討を行う。

##### 回復期

- 3病棟150床で地域包括ケア病棟を回復期機能病床として運用しており、今後も維持する予定。
- 院内一般病棟からの転棟割合（44%）を少なくし、在宅・地域医療機関からの紹介入院割合を増やす。

### 3 具体的な計画

## (1) 今後提供する医療機能に関する事項

### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2023年7月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、代謝内科、腎臓内科、脳神経内科、外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、救急科、病理診断科	現状維持	科目の変更は、無いが救急科の機能強化は必要と考える。
新設			
廃止			
変更・統合			

### 3 具体的な計画

#### (2) 数値目標

	現時点(2023年3月時点)	2025年
①病床稼働率	一般病床 87.5% 地域包括病床 81.5%	一般病床 90.0% 地域包括病床 90.0%
②紹介率	22.2%	40.0%
③逆紹介率	23.5%	50.0%

## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 取組内容

##### ○救急医療の充実

- 救急車受け入れ台数 年間2,200台以上を目指す。
- 夜間・休日の体制強化を図り医師2名体制を検討する。
- 救急の充実と合わせて急性期医療の質の向上を図る。HCU病床整備を見据えた専門医、常勤医師確保を行い、常勤医師35名体制を目指す。
- 手術室の稼働アップを図り、手術件数 年間2,000件以上を目指す。

##### ○災害医療提供体制の構築

- DMATチームのスキルアップ、ハード面の充実を行うとともに、日常及び活動時の院内バックアップ体制の構築を行う。
- 災害拠点病院としてBCPのブラッシュアップを図る。また、地域、自治体と連携した訓練計画の策定を行う。

## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 取組内容

#### ○地域医療連携の推進

- 熊本メディカルネットワークのさらなる活用を図り、新規登録者数 月間50名を目指す。
- 紹介率・逆紹介率アップのために地域連携部の入退院支援機能の強化を行う。  
今年度は、地域連携の会を再開し、連携医療機関・施設との連携を深める。
- 菊池郡市医師会との連携強化。



## 3 具体的な計画

### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

#### 取組内容

#### ○働きやすい環境整備の取組み～①

- 常勤医師の確保を引き続き行う。
- 医師のタスクシフト実現の為の取組。
  - ▷ 薬剤師・管理栄養士等コメディカルの病棟配置のさらなる促進。
  - ▷ コメディカルの医師業務への積極的介入・参加による負担軽減。
  - ▷ 医師事務補助業務の見直し、増員を検討。
- 当直明け医師の翌日の勤務軽減の実施。
- 専門看護師・特定行為看護師の資格取得支援と育成。

### 3 具体的な計画

## (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

### 取組内容

#### ○働きやすい環境整備の取組～②

- 社会医療法人への移行。  
⇒社会的信頼の向上と地域貢献。
- 新築・移転に伴うハード面の充実。  
⇒若い世代の労働意欲の向上・新入職員確保への寄与。
- 子育て世代が働きやすい環境づくり。  
⇒保育園設備の充実（夜間開園・病児保育）及び、職員二ーズにあわせた運用の実施。男性育児休業の推進・特別休暇の充実。

「プラチナくるみん」～高水準で子育て中の職員を支援する企業～

「ブライト企業」～職員がいきいきと輝き、働き続けられる企業～

「えるぼし」～女性の活躍促進を支援する認定企業～

「よかボス企業」～トップが、職員の充実した生活を応援する宣言～

「ヘルスター健康宣言」～健康経営に関する宣言～

「熊本県SDGs登録業者」

各種認定取組を継続し、さらに働きやすい環境の維持と向上を図る。